

新年のつどい 平和と暮らしを壊す大軍拡・大增税許すな!

日本共産党を大きくし、地方選勝利、岸田内閣退陣を!!



毎月25日
月1回発行
定価 100円

発行所

新みやぎ社
日本共産党
宮城県委員会
機関紙発行所
仙台市青葉区一番町
一丁目12-25
電話(022)267-1511
http://www.jpcc-miyagi.net/

日本共産党各地区委員会

- 仙台西地区委員会 (022) 225-2920
- 仙台東地区委員会 (022) 372-2604
- 塩釜地区委員会 (022) 364-3222
- 東部地区委員会 (0225) 22-6335
- 仙南地区委員会 (0223) 22-4036
- 北部地区委員会 (0229) 22-1252



歓声に応える県議選、仙台市議選の候補者 8日



杉山茂雅県後援会会長



高橋千鶴子衆院議員

仙台市議選・宮城県議選候補らが決意表明 杉山県党後援会長が「前進へ役割を果たそう」とあいさつ

日本共産党宮城県委員会と県後援会は8日、仙台市で「新年のつどい」を開きました。夏の仙台市議選や秋の県議選の候補者が勢ぞろいし、参加した215人は、統一地方選で必ず勝利する決意を固めました。

県後援会の杉山茂雅会長は、岸田政権の憲法・民主主義破壊を批判、共産党が大きくならなければならぬと強調。「前進させる後援会の役割を果たす決意を示すつどいにして」と呼びかけ、中島康博県委員長は、必勝をめざすたかいたと党勢拡大の両面で奮闘する決意を語りました。

日本共産党の高橋千鶴子衆院議員が国会報告をおこない、党がずっと訴えてきた「賃上げ」「子育て政策」「安保政策」が国会論戦の争点になると指摘。対案を示して



多々良哲市民連合みやぎ事務局長



鎌田さゆり衆院議員(立憲民主)



20歳の若者に訴える党県議、仙台市議ら 8日

日本共産党宮城県委員会

平和な日本を一緒につくろう! 「はたちの集い」で共産党が宣伝

「はたちの集い」会場近くの地下鉄富沢駅前で行った。着飾った若者に「青年の力が生かされる社会を一緒につくろう」と呼びかけました。

会は8日、仙台市の「はたちの集い」会場近くの地下鉄富沢駅前で行った。着飾った若者に「青年の力が生かされる社会を一緒につくろう」と呼びかけました。市は今年から、「はたちの集い」を新型コロナの影響で2回に分けて開催。午前の宣伝は、金田基真議や中嶋廉前県議、すげの直子、ふるくぼ和子、嵯峨サタ子の3市議、花木則彰前市議がマイクを握りました。

お祝いを述べながら、今年は「戦争か平和か」



市民に訴える高橋・岩淵両議員と党県議、仙台市議ら 2日、仙台市

党新春宣伝

「共産党がんばって」と市民が応援

高橋衆院議員、岩淵参院議員、県議、市議らが訴え

伝統の初売りでにぎわう仙台市の中央通り商店街で2日、共産党の高橋千鶴子衆院議員と岩淵友参院議員を先頭に、党県議団、仙台市議団が平和と暮らしを守る政治を実現する決意を訴えました。人は今年も少なめですが、福袋を抱え手を振る若者や女性ら多くの市民が注目しました。高橋氏は、「戦争に命がけで反対してきた100年の歴史と役割を受け止め、『平和、憲法9条守れ』の声を上げていきます」と訴え。岩淵氏は「国民の声を聞かない政治、命と暮らしがないがしろにされる政治を一緒に変えよう」と呼びかけました。飛び入りで党の旗を持つてくれた青葉区の高橋3年の男子生徒(18)は、「今年の抱負は大学に進学し、サッカー部で活躍することです。共産党の人は、他の政党に比べて明るいし、人柄がいいので応援したいです」と話しました。若林区の男性(54)は「昨年は暗いニュースが多かったのでも、前に進む年になってほしい。共産党は他の政党では言えないことも言えるので、是非々の議論で世の中を良くしてほしい」と期待を寄せました。

消費税5%でインボイス不要 民商決起集会で大門氏講演

宮城県商工団体連合会は7日、多賀城市で「新春学習決起集会」を4年ぶりに開き、78人の会員が参加。日本共産党の大門実紀史前参院議員が「消費税・インボイス中止のたたかいたいと中小企業の生きる道」と題して講演しました。三戸部尚一会長は、消費税5%減税とインボイス不要の構造的理由について述べた。5%減税で複数税率はなくなり、インボイスも必要なくなる」と述べた。会場からの「他の国はどうやって賃上げをしているのか」との質問に、「中小企業支援策とセットで賃上げをしている」などと丁寧に答えました。各地域の民商や青年部、婦人部が、年頭の決意を語り



大門氏の講演を聞く参加者 7日 多賀城市

ました。

国の悪政から市民を守る

共産党仙台市議団が新年宣言

日本共産党仙台市議団は、仕事始めの4日、市役所前で訴える仙台市議団ら



市役所前で訴える仙台市議団ら 4日

役所前で宣言。新年にあたり、平和を守り、新型コロナウイルス感染症や物価高騰による生活苦などから、市民の命、暮らし、生業を守るために全力をあげる決意を語りました。

嵯峨サタ子市議団長を先頭に、ふるくほ和子、すげの直子、高見のり子、庄司あかり、高村直也の6市議に加え、吉田こう、かながみ達之両市議候補がマイクを握りました。岸田政権の大軍拡・増税路線を批判し、

国の悪政から市民を守る市政の役割の重要性を強調。国に先んじた35人以下学級の拡充や燃料費高騰に対する交通事業者への支援金支給などの実績を示し、学校給食費の無償化や高齢者の補聴器購入助成の実施など市民の暮らしを応援する市政をさらに前に進める決意を語りました。

青葉区の高橋裕見子さ(69)は、「共産党さんには、教育にもっとお金をかける市政にするためにがんばってほしい」と期待を寄せました。

ある国にするために全力をあげる」と表明。参加した党の仙台市議・県議候補を紹介して拍手が湧きました。

春闘共闘会議が決起集会

「内部留保を賃金へ」闘いでこそ実現



春闘共闘へ決意を固める組合員 6日

宮城県の春闘共闘会議は6日、春闘勝利をめざす決起集会を仙台市で開きました。

代表幹事の高橋正行県労連議長は、「賃上げを譲るわけにはいかない春闘だ。政府に頼っても賃上げは実現できない。労働者のたたかいでこそ実現する」と呼びかけました。

日本共産党のふなやま由美副委員長と立憲民主党の石垣のりこ参院議員が連帯のあいさつをしました。ふなやま氏は、憲法9条を壊して戦争まっしぐらの岸田政権の大軍拡・増税路線を批判し、「日本を賃金上がる国、労働者を大切に希望

市民とともに未来をひらく 日本共産党仙台市議団の実績と提案(上)

2022年12月
日本共産党宮城県委員会
日本共産党仙台市議団

1、市民とともに誕生させた「まちの主役は人」の立場を市政に貫くことを求めさらなる前進を図る

日本共産党仙台市議団は、安心して暮らせる市政への加速的な発展を求めて市民とともに力を合わせて、市政前進に力を尽くしてきました。この3年半の間に、子どもの医療費助成制度の所得制限の撤廃や、国に先んじての35人以下学級の拡充を実現、長年にわたって取り組んできた子どもへの学びを支援する就学援助については入学準備金の前倒し支給や、卒業アルバム代など支給費目の拡大、認定基準額の引き上げと改善を図ってきました。高すぎる国保料の引き下げ問題でも未就学児は均等割りの全額免除、それ以降18歳までは5割減免を実現。子ども食堂の運営に対する支援の拡充を実現してきました。

10の労組がスローガンを示して発言。「ベースアップの実現と平和のため春闘」の現実と「軍事費ではなく教育・福祉・医療の充実を求めます」「内部留保を賃金と地域へ」今までにない取り組みで岸田政権打倒の要になる」と決意を語りました。

2020年春以降の長引くコロナ禍のもと、市民のいのちと健康を守る体制構築と市民や事業者の支援を強めるよう、議会の論戦とともに緊急要望を7度にわたって市長に提出。保健師の増員や全庁の応援体制の構築、市役所1階のPCR検査センターの設置を実現させてきました。また、市民や地元中小事業者の苦境をリアルに伝え、基金の思い切った活用など財源も具体的に示しながら、市民生活と地域経済応援の施策を提案。上下水道料金基本料金の減免や中小事業者や低所得者、新生児に対する市独自の給付金や支援金の実施につなげてきました。

2、問題点については厳しく指摘、 「新自由主義路線」からの転換を強く求める

市民の声にこたえて市政の前進を提案し実現を図るとともに、市民の利益にならないことについては、厳しく批判し問題点を指摘する姿勢を貫いてきました。行政が果たすべき公的役割を民間の市場競争にゆだねる「新自由主義」から抜け出すことの必要性は、コロナ禍を経験する中で、いっそう強く求められています。

市民共有の財産であり、安全・安心・安定供給が求められるガス事業を、民間に安く売り飛ばすことをやめ、公営事業としてさらに市民に還元するよう一貫して主張し、議会でも唯一、民営化に反対してきました。また、公立保育所の廃止・民営化についても、現在の公立保育所を維持し、地域の民間事業者や子育て家庭への支援の役割を充実強化することこそ重要と指摘し続けています。

市民のいのちと健康を守る体制構築と市民や事業者の支援を強めるよう、議会の論戦とともに緊急要望を7度にわたって市長に提出。保健師の増員や全庁の応援体制の構築、市役所1階のPCR検査センターの設置を実現させてきました。また、市民や地元中小事業者の苦境をリアルに伝え、基金の思い切った活用など財源も具体的に示しながら、市民生活と地域経済応援の施策を提案。上下水道料金基本料金の減免や中小事業者や低所得者、新生児に対する市独自の給付金や支援金の実施につなげてきました。

また、市役所本庁舎の建て替えや、音楽ホール、メモリアル施設などの大型公共事業が今後本格化する中、市民には財政難を強調し、市役所経営プランでは、敬老乗車証やごみ処理手数料、敬老祝い金や児童クラブの利用料などの「あり方を検討する」としており、今後市民サービスの後退も強く懸念されています。こうした課題についてもいっ早く議会でとりあげ、負担増や値上げではなく、「検討する」ならよりよい制度にすべきと求めています。

また、消費税の増税や、高齢者の年金引き下げ、医療費の負担増など市民いじめの国の誤った政治については、市民とともに国に対してものを言い、市民の暮らしを守る防波堤の役割を果たすよう主張しています。

「次号へつづく」

3、市民とともに未来をひらく、 日本共産党仙台市議団の提案

○「まちの主役は人」この流れをさらに加速し市政を「5つの願」に

郡市政の4年間で、市民一人当たりの民生費や教育費は年々増加してきていますが、民生費では政令市で比較すると、まだ下から5番目という低さになっています(2019年度決算)。東日本大震災やコロナ禍のなかでも高速鉄道建設基金や公共施設保全整備基金に50億円ほどの積み立てを